

女川原子力発電所2号炉 指摘事項に対する回答一覧表
 (運転中の原子炉における格納容器破損防止対策の有効性評価)
 (DCH, FCI, MCCI)

No	分類	項目	審査 会合日	回答
1	指摘 事項	逃し安全弁を炉心損傷後の高温蒸気が通過する場合にも確実に減圧できることを示すこと。	H27. 3. 10	炉心損傷後に高温蒸気が通過し、主蒸気逃がし安全弁駆動部が高温になることによる機能喪失を防止するため、遮熱板を新たに設置し、事象発生後、減圧が必要な期間(約3.8時間)において、確実に機能が発揮できる設計とする。 (資料2-1-1にて回答)
2	指摘 事項	ドライウェルの水位を考慮に入れて、格納容器スプレイの手順を説明すること。	H27. 1. 20	FCI及びMCCIの影響を考慮し、女川2号炉においては、初期水張りとして格納容器下部水位約3.4mまで注水する。 (資料2-1-1にて回答)
		格納容器下部注水による水位の適切性については、FCIの議論の後、再度議論するので、準備しておくこと。	H27. 1. 20	
3	指摘 事項	ペDESTALへの注水が確実に行われていることの確認手段について説明すること。	H27. 3. 10	格納容器下部注水操作時における注水状況の確認手段として、原子炉格納容器下部水位計、ドライウェル水位計等を整備しているため、格納容器下部へ注水が行われていることは確認可能である。 (資料2-1-1にて回答)
4	指摘 事項	MCCIについて、溶融炉心がドレン配管に流入しても配管内で固化することからコリウムシールドは自主設備と位置づけているが、ドレン配管内で溶融炉心が固化すると判断した科学的・技術的な根拠について試験結果等を基に提示すること。	H29. 10. 26	ドレン配管内の閉塞評価として、EPRI/FAI試験に基づき流動距離を評価し、ドレン配管内で閉塞することを確認した。 (資料2-1-1にて回答)